

発掘新聞

6月6日号

平成27年度第1号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575



かみほんまちいせき
上本町遺跡

今年度も県内各所で発掘調査開始！

あの有名歌手の母校は弥生時代の集落 九州歴史資料館も発掘調査支援中！

県立西田川高校の校庭内で調査中の
上本町遺跡（奥は高校の校舎）



いよいよ今年度も発掘調査がはじまった。大規模事業・東九州自動車道建設のための発掘調査にめどが立ち、ホッと一息…する暇もなく早速4月から当館の技師たちは県内各地の現場に向かった。当館は主に高速道路やダム建設など大規模な事業や、大宰府史跡の発掘調査を行っているが、時には市町村が主体的に実施している調査の支援に行くこともある。そんな発掘現場のひとつが田川市・

上本町遺跡。文化財調査室長に加え、69歳の九歴OBもスコップ片手に奮闘中。県立西田川高校の創立一〇〇周年事業として校舎の建て替えが予定され、その場所を遺跡の有無確認のために掘ったところ弥生時代の集落が残っていることがわかったのだ。実際に本格的な調査に入ってみると弥生時代の住居の跡や稲穀などの食料を蓄えるための穴



貯蔵穴

貯蔵穴

手前は深さ2m近い貯蔵穴。左奥は小判の形をした貯蔵穴

（貯蔵穴）などが出てきた。

これらは弥生時代前期の終わりから中期前半（二一〇〇年ほど前）の集落で、稲作が定着し人口が爆発的に増えた時期のもの。北部九州の各地で有力者が現れて地域ごとにまとまりはじめたり、甕棺が流行りはじめるのもこの頃である。弥生時代の当時から思ったほど地面が削られていない上に、多くの穴から出てくる土器が毎日すごいペースで増え続けている。すでにパンケースに一〇〇箱以上…。土器だけでなく、石庖丁という稲を穂摘みして収穫する道具もある。

ちなみにこの高校は井上陽水さんやIKKOさんの出身校とのこと。（吉村靖徳記者）

期限内に意地でも終わらせる！

熱く意気込む田川市教育委員会 江上正高学芸員（38）



学生時代から発掘の手伝いに行き、卒業後は大分市や長崎県を渡り歩いてきた。「工事にかかるのは8月から。田川市を代表する重要な遺跡ですが、最大の成果を引き出しつつも万難を排して期限内に合わせます！」

出てくる土器の量も半端じゃない！発掘後の整理も大変だ。



【告知】

こども考古学体験教室

8月1日（土）

夏休みに「考古学者」になつてみませんか？発掘調査で

出土した土器のかけらを復元する作業が体験できます。

参加費 無料

申し込みは当館受付で

次号は柳川城関連の報告を

予定しています。